



Saitama Rugby School Magazine

2014年10月号

Head Line

- ★県内スクール紹介「熊谷ラグビースクール」
- ★第29回埼玉県ラグビースクール交流会
- ★スクール指導のヒント

2014年10月10日 No.42

発行責任者 鈴木正則

編集 スクール部会広報

県内スクール紹介

「熊谷ラグビースクール」



熊谷ラグビースクールは、1967年(昭和42年)に開催された埼玉国体の翌年に設立された大変歴史のあるスクールです。

ホームグラウンドは、「ラグビータウン熊谷」を象徴する「県営熊谷ラグビー場 芝生グラウンド」。スクール設立当初は国体のラグビー会場であった荒川河川敷グラウンドで活動していましたが、熊谷ラグビー場の開園後、現在の恵まれた環境の中に活動の場を移しました。

毎週日曜日、幼児から小学6年生まで約90名の個性豊かな子供達が、元気にグラウンドを走りまわっています。

指導方針(目的)は『ラグビーを通して運動に親しむ習慣を育て健康と体力づくりの向上をはかる』とし、約30名の有資格の指導者が子供たちを楽しく、時には厳しく指導しています。当スクールの木部校長は、「週に1回楽しめる場所、褒められる場所になればいい」と、スクール創設からの基本理念を語っています。

当スクールの特長は、毎年5月と9月に開催される埼玉県ミニラグビー交流会をはじめ、各イベントの準備から運営まで、指導者と保護者が一体となって実行できるチームワークです。

例えば交流会当日には、朝7時から保護者の方(お父さん)や鴻巣ラグビースクールにご協力いただき、会場設営を行っています。指導者だけで短時間で準備するのは厳しいところ、毎回10名以上の保護者の方にご協力いただき、円滑に会場設営が完了しています。また、交流会開催中には、各グラウンドで放送や救護等で約10名の保護者の方(お母さん)にもご協力いただいています。

このような指導者と保護者の協力体制の基、7月の新潟・夏合宿、11月の三郷ミニラグビー交流会、12月のクリスマス会、3月の閉校式とイベントを開催しています。



各チームの近況

<園児(Dチーム)>

身体を動かす事の楽しさ、ルールを守る事の大切さなどを教えています。子供たちのお気に入りには『おにごっこ』。何故か、鬼になりたい子が多く時代を象徴している気がします。

<1・2年生(Cチーム)>

ラグビーの基礎と共に遊びながら基礎体力・運動機能の向上を図っています。

好評連載中

.....スクール指導のヒント

ふくじゅ草総合型スポーツクラブの グラウンドづくりへの取り組み

慣れ親しんだホームグラウンドの閉鎖。

ピンチをチャンスに！

世代を超えてスポーツが楽しめる芝生のグラウンドを自分たちの手でつくる取り組みがスタートしました。11月3日開催予定の「第29回三郷ミニ・ラグビー交流大会」に向けて、現在グラウンド整備に奮闘中です。



新グラウンド候補地東側の「水とみどり」豊かな江戸川沿いの風景

三郷グラウンド閉鎖？

ふくじゅ草がホームグラウンドとしてきた三郷「江戸川運動公園ラグビー場」が国交省の川幅拡張工事準備のため、去る9月末をもって閉鎖となりました。以前から河川改修工事の計画は持ち上がっていましたが、政権交代以降、ゲリラ豪雨や地震対策としての整備計画が具体化され今回の決定となった模様です。

当クラブのスクール活動はもちろんのこと、三郷ミニ交流会などラグビー仲間が集う場所として長年利用されて来ましたので、次世代に引き継ぐべく、コーチ達がボランティアで維持・管理に努め大切に守ってきたグラウンドでした。



新しいグラウンド作りへ！

「一見ピンチに思えるかもしれませんが、これはチャンスに変えることができます。我々の手で新しいグラウンドを創りましょう。」と山道代表が会議で宣言されたのは今年春のことでした。

私は1980年代に観た“Field of Dreams”というアメリカ映画を思い出しました。ケビン・コスナー演じる主人公が、ある日 If you build it, he will come.

交流会では今までに見たこともないスーパープレイが続出し、子供達のポテンシャルの高さを感じます。

<3・4年生(Bチーム)>

基本プレーを中心に継続するラグビーを教えています。

グラウンドが大きく、走れるスペースは沢山ありますが、一人で前進することが大好きな子供達なので……。スクールの中で一番女の子が多く、元気のあるチームです。

<5・6年生(Bチーム)>

子供の体力差が大きくなる年代ですので、安全性に留意しながらラグビーの基礎と基本プレーを再確認し、また、練習では常に自主性を求めています。

数年後に大きな花が咲けばと思っています。

各ラグビースクールの皆さん、当スクールのホームグラウンドで一緒に練習をしませんか。

いつでも受け入れ可能ですので、気兼ねなくお声掛けください。

熊谷ラグビースクール 新井泰弘

第29回埼玉県ラグビースクール交流 9月23日熊谷ラグビー場で開催

9月23日、熊谷ラグビー場で「第29回埼玉県ラグビースクール交流会」が開催されました。この日、秋晴れとなったグラウンドでは全70試合の熱戦が繰り広げられました。なかでもA、B、C各クラス単位に女子だけで編成されたゲームには、ギャラリーから大きな声援が送られていました。年々、増え続ける女子選手ですが、この中から世界へ羽ばたくラグビーガールが誕生するのも夢ではないでしょう。

また、Bグラウンドでは、ラグビースクールのジュニアチーム代表が、寄居中学校と深谷中学校の部活チームと学年単位で対戦しました。



(それをつくれば、彼が来る)という天の声に導かれてトウモロコシ畑に野球場をつくるお話です。そして映画の中では、ついに「彼」がやってくるのです…。夢のあるドラマの舞台“新グラウンド”を創る機会など、そう簡単には遭遇できませんが、いざ三郷で実作業をはじめると、天候の影響や試行錯誤と人手不足などの連続で、計画通りには進みません。ゴールは数年先を見据えた長い作業となりますが、何とか10月からの新グラウンドでの練習に漕ぎ着けています。



芝生化の常識を覆した「鳥取方式」の導入

今回、グラウンドを芝生化するにあたり導入したのが「鳥取方式」と言われるものです。多額な導入コストと管理費がかかる従来の芝生化の常識を覆し、ティフトン芝のポット苗の移植と雑草を混生させることによって「草原(くさはら)のような芝生」を作っていく鳥取大学が提唱する方法です。この方式の導入によって、校庭の芝生化は全国に広がりを見せていますが、子供たちの外遊びの機会や集団での遊びの種類が増える傾向があり、体力や運動能力が向上したことやストレスの軽減などにも効果があることが発表されています。また環境面でも砂埃の飛散防止や地温上昇の防止といった効果も期待され、芝生の緑は目に優しいだけでなく精神的にも安定するといわれ、イジメが減った例もあるそうです。

さらに子供たちだけでなく芝生化に協力した保護者や住民などの地域コミュニティが集う場としても活用され、地域への愛着・まちづくりへの参画意識の向上などにも貢献しているようです。



「まちづくり」視点でのスポーツとクラブ運営

今回の活動において、ふくじゅ草のミッションが「スポーツを通じたひとづくり・まちづくり」であったことを再認識する機会が数多くありました。従来もグラウンドの整備・種まき・清掃などの維持・管理は自分たちの手で行ってきましたが、今回の新しいグラウンド作り、特に芝の植付けに関しては、「まちづくり」を考える方々や地域コミュニティとの相互理解に努めながら、連携・協働を進めることにも注力しました。

賛同者の方々には「ふく芝プロジェクト」メンバーになって頂き、活発に意見を交換する中から、まちづくりや今後のクラブ運営につながるヒントを得ることが出来ました。植付けを単なる作業と理解するのではなく、市民参加型の「スポーツ芝植大会」というイベント企画に昇華させて実施することが出来たのもその成果でした。今後も芝生の株(苗)を植えて頂いた方々を「株主」と呼ぶことで関係性を大切に継続させることや、新グラウンドの「ステークホルダー」として位置付けて協力関係を構築して行くこと、さらにNPO法人化など得られた経験・人脈を新たな財産にしてクラブの可能性がさらに広がって行くことを期待しています。

さて、三郷のフィールドにやって来る「He」「She」は誰でしょう？楽しそうに楯円球を追う無邪気な子供たち、OB、将来のジャパン？それとも…。



追記:埼玉県・東京都近隣ラグビースクールの皆さま、埼玉県ラグビースクール Jr.(中学生)チームの選手・指導者の皆さま、有志各位など多くの方々にご支援を頂いています。一人ひとりの“Field of Dreams”に心から感謝。

公認クラブマネージャー
ラグビーフットボール指導員
ふくじゅ草 井尻靖彦

Present

■応募方法

埼玉県ラグビーフットボール協会のお問い合わせメール (info@rugby-saitama.jp) で申込む
subject「10月号サイン入り色紙」希望と記載

本文に①氏名②送付先住所③年齢④希望選手の番号を明記

当選発表は景品の発送をもって代えさせていただきます。

- ① NTTコミュニケーションズ
沼尻大輝選手(写真)
小野慎介選手
杉浦直人選手



- ②リコー
ロトアヘア ポヒヴァ大和選手

